## 2025年3月期第2四半期(中間期) 決算説明会 質疑応答

2024年11月13日

新日本空調株式会社



## 2025年3月期 第2四半期(中間期)決算説明会における質疑応答

No.	質 問	回 答
1	第2四半期の完成工事高が、前年比で大きく伸びているが、想定範囲 内で推移しているのか。	今年度は前年度からの繰越工事高が多く、期首より下期に繁忙が集中しないよう、全事業部門で工事の平準化に努めてまいりました。その結果、当初の想定を 上回る成果が現れています。また、下期には多くの竣工物件を予定しており、公表値の達成とより高い目標を見据えながら、全社一丸となって取り組んでまいり ます。
2	データセンターや半導体関連が好調とのことですが、産業の受注工事 高において、前年同期比でマイナスとなっています。その理由を教えて 下さい。	産業分野におきましては、前年度上期に大型のデータセンター案件を受注したことから、前年同期比では減少しております。しかしながら、2022年同期と比較すると100億円以上の増加を達成しています。データセンターや半導体関連を中心とした産業分野の受注は堅調に推移しており、安定的な需要が続くと見込んでおります。
3	受注時の採算性について教えて下さい。	保健・産業分野ともに、資機材、労務費、運搬費は上昇しておりますが、受注環境の改善は進んでおります。その結果、採算性は着実に改善しており、全体として 順調に推移しております。今後も継続的なコスト管理と適正価格の確保に努め、安定した収益基盤を築いてまいります。
4	原子力工事の今後の見通しについてご教授ください。	原子力発電所の再稼働に向け、改修工事や保守・メンテナンス工事の需要が堅調であり、仕事量は今後も安定して推移する見通しです。また、今後も安全性や信 頼性向上を目的とした工事が見込まれるため、堅調に推移していくと考えております。
5	現在の営業利益や経常利益の成長軌道は、来年度以降も持続可能です か。市場環境を考慮した見通しを教えてください。	現在の営業利益および経常利益の成長は、受注環境の改善と採算性の改善によるものです。今後も設備投資や大型再開発が継続する場合、引き続き成長を維持し、安定した収益基盤の構築が見込めるものと考えております。

## 2025年3月期 第2四半期(中間期)決算説明会における質疑応答

No.	質問	回  答
6	CDPのAスコアには目を見張ります。カーボンニュートラル達成に向けた御社の環境負荷の削減に向けた具体的な施策をいくつかご教示ください。	当社では、カーボンニュートラル達成に向け、フロン漏洩事故の撲滅、GHG排出量の削減、再生可能エネルギーの活用促進、設計提案の強化、温暖化対策技術の 開発促進、現場での産業廃棄物リサイクルの推進、フラッシング排水削減による水質汚染の抑制、施工中の化学物質漏出事故の撲滅など、具体的な施策に取り組 んでおります。これらの取り組みを通じて、環境負荷の一層の削減と持続可能な社会の実現を目指し、今後も積極的に推進してまいります。
7	VPPプラットフォームの開発のスタートアップと資本業務提携されましたが、どのように収益化されるのか、詳しく伺いたいです。	今後、VPP市場は再生可能エネルギー電源の普及拡大や調整力需給の逼迫を背景に、さらなる成長が期待される分野です。当社では、再生可能エネルギーや蓄電池などへの投資を通じた中長期的な収益基盤の構築を視野に入れています。自然電力やスタートアップ企業との連携を強化することで、技術革新やノウハウの共有が進み、今後の市場競争力向上に貢献すると考えており、持続可能な利益創出に繋がると見込んでおります。
8	受注高につきまして、2Qの進捗が好調であることを踏まえると受注計画はやや保守的にも見えますが、いかがでしょうか。24年問題の影響に関しましても、特段大きな問題はございませんでしょうか。	今年度の受注計画は、時間外労働の上限規制による影響を考慮し、施工体制の構築可能性を十分に検討した上で策定しております。現時点では、昨年度並みの受注工事高を確保しており、順調に推移しています。今後も施工体制の整備を見極めつつ、積極的に受注活動を展開し、状況に応じて計画値の上方修正も視野に入れながら対応してまいります。また、2024年問題(時間外労働の上限規制)についても、大きな問題もなく対応できており、引き続き万全の体制を維持・強化してまいります。





私たちが暮らす社会の永続には、 自然界とのベストバランスの 維持が欠かせません。 果てなきサステナブルへ。 SNKはエンジニアリングパワーで、 人と自然、社会と地球の あるべき調和を追求します。

